

# 知財創造教育連絡協議会(仮)

## 計画案 (中部コンソ3年間の経過を踏まえて)

三重県立四日市商業高等学校

世良 清



中部地域 知財創造教育コンソーシアム 出席者一覧表

属性	名前（敬称略）	所属・職名（当該年度）
【教育機関】	渥美 勇輝	鈴鹿市立平田野中学校教諭
【教育機関】	世良 清	三重県立津商業高等学校教諭
【教育機関】	田中 博章	愛知教育大学附属高等学校地歴公民科教諭
【教育機関】	山崎 祐二	長野工業高等学校機械科教諭
【教育機関】	森 兆立	鈴鹿享栄学園鈴鹿高等学校教諭
【教育機関】	中谷 真人	愛知県小中学校長会会長（碧南市立大浜小学校校長）
【教育機関】	大津 孝佳	沼津工業高等専門学校電気電子工学科教授
【教育機関】	松岡 守	三重大学教育学部教授
【教育機関】	三宅 茜巳	岐阜女子大学大学院文化創造学研究科研究科長
【教育機関】	村松 浩幸	信州大学学術研究院教育学系教授
【教育機関】	磯部 征尊	愛知教育大学創造科学系技術教育講座
【教育機関】	魚住 明生	三重大学教育学部技術・ものづくり教育コース教授
【教育機関】	香坂 玲	名古屋大学大学院環境学研究科教授
【教育機関】	西淵 茂男	愛知教育大学理事・副学長
【教育機関】	糸乗 前	滋賀大学教育学部学校教育教員養成教授
【民間団体】	高瀬 雅人	一般社団法人愛知県発明協会
【民間団体】	山上 敏樹	NPO法人子どもアイデア楽工 理事長
【民間団体】	岡田 廣司	株式会社メニコン 取締役／東京福祉大学・大学院 社会福祉学部 教授
【民間団体】	鈴木 聡	沼津商工会議所沼津地域中小企業支援センターコーディネーター／株式会社クロスボーダー
【民間団体】	加藤 明彦	エイベックス株式会社 代表取締役会長（愛知中小企業家同友会会長）
【民間団体】	内輪 博之	愛知中小企業家同友会 専務理事
【民間団体】	菱川 定俊	中部経済同友会課長
【民間団体】	筒井 厚至	中日新聞NIE事務局事務局長
【民間団体】	山本 和男	特定非営利活動法人アスクネット代表理事
【公的機関】	中村 敬	特許業務法人ぱてな 代表弁理士/日本弁理士会東海支部支部長
【公的機関】	渥美 久彦	渥美特許事務所所長弁理士/日本弁理士会東海支部副支部長
【公的機関】	北 裕介	日本弁理士会 東海支部 教育機関支援機構 機構長／あいぎ特許事務所
【公的機関】	菊谷 純	日本弁理士会東海会教育機関支援機構機構長
【公的機関】	吉井 雅栄	日本弁理士会北陸支部長／吉井国際特許事務所
【公的機関】	淵上 勇樹	日本政策金融公庫 国民生活事業本部 名古屋創業支援センター
【地方公共団体】	北岡 龍也	岐阜県教育委員会事務局学校支援課長
【地方公共団体】	秋田 浩介	愛知県 経済産業局産業部 産業科学技術課 研究開発支援グループ 主事
【地方公共団体】	佐野 和也	富士宮市産業振興部商工振興課知財戦略・商業係主幹兼係長
【地方公共団体】	佐野 勝紀	富士宮市産業振興部商工振興課知財戦略・商業係主査
【経済産業局知財室】	大山 栄成	中部経済産業局地域経済部産業技術課知的財産室長
【経済産業局知財室】	正 智晃	中部経済産業局地域経済部産業技術課知的財産室長
【事業主体・内閣府】	西川 毅	内閣府知的財産戦略推進事務局参事官補佐
【事業主体・内閣府】	守 誠一郎	内閣府知的財産戦略推進事務局参事官補佐
【事業事務局】	萩原 達雄	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 知的財産コンサルティング室主任研究員
【事業事務局】	上野 翼	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 知的財産コンサルティング室 研究員/副主任研究員
【事業事務局】	平川 彰吾	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部研究開発部研究員

# 本日の報告内容

1. 中部地区コンソーシアムの3年間の経過

2. 出席者一覧表

属性分布：教育機関（学校、大学）、民間団体、公的団体、  
地方公共団体、中部経産局、内閣府、事業事務局

地域分布：東海地区・・・・・・・・愛知、岐阜、三重、静岡

北陸・信越地区・・・・新潟、長野

その他・・・・・・・・滋賀

3. 直近の成果と今後の方向性

4. 知財創造教育連絡協議会（仮）の計画案

# 中部地区コンソーシアムの3年間の経過

---

## 地域・社会と協働した「知財創造教育」に資する学習支援体制の調査（関東・中部） 意見交換会（地域コンソーシアム会合）

日時：平成29年12月1日（金） 10時00分～12時00分

場所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 10階 第1セミナー室

### 議事次第

#### 1. 開会

#### 2. 意見交換

##### （1）本地域における今後の知財教育推進のあり方について

- ①本地域における取組状況と課題
- ②今後の体制について
- ③実施上のポイントについて

##### （2）自由討議

#### 3. 事務連絡

#### 4. 閉会

### ■配布資料

#### 出席者名簿

資料1 本地域における知財教育推進についての検討

参考資料1 三重県立津商業高等学校における取組

参考資料2 知的創造活動と知的財産

地域・社会と協働した「知財創造教育」に資する学習支援体制の調査（東北・関東・中部）  
意見交換会（地域コンソーシアム会合）

日時：平成30年12月21日（金） 15時00分～17時30分

場所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社  
名古屋本部 10階 セミナールーム

議 事 次 第

1. 開会（約10分）
2. 意見交換
  - (1) 全体議論
    - ①知財創造教育の捉え方・範囲について（20分）
    - ②本地域における取り組み状況（20分）
    - ③知財創造教育を通じて目指すこと（20分）
    - ④論点の中間整理（10分）
  - (2) グループディスカッション
    - ①中部地域における、今後の知財創造教育の普及・定着の方策検討（50分）
    - ②情報共有（10分）
  - (3) 第2回会合にむけて
    - ①第2回全体会合に向けた、2019年1月以降の動きの確認（5分）
    - ②第2回全体会合の開催日調整（5分）

### 3. 事務連絡

### 4. 閉会

(閉会后、18時頃より同会場にて懇親会を開催します。)

#### ■配布資料

#### 出席者名簿

- 資料1 知財創造教育の捉え方 (案)
- 資料2 中部地域の取り組み状況
- 資料3 知財創造教育の目指すもの (案)
- 資料4 グループディスカッションの議論ペーパー  
(普及・定着に向けた方策検討)
- 参考資料 中部広域コンソーシアムの自立化方策 (たたき台)

地域・社会と協働した「知財創造教育」に資する学習支援体制の調査  
(東北・関東・中部)意見交換会(地域コンソーシアム会合)

日時：平成31年3月8日(金) 15時00分～17時30分

場所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社名古屋本部 4階 セミナールーム

議 事 次 第

1. 開会
2. 意見交換
  - (1) 実証授業等の状況報告 (30分)
  - (2) 知財創造教育の捉え方 (20分)
  - (3) 知財創造教育の普及・定着に向けた方策検討 (90分)

3. 事務連絡

4. 閉会

■配布資料

出席者名簿

資料1 知財創造教育の捉え方

資料2 中部コンソーシアムの機能検討

参考資料 普及・定着を補助する機能の検討(見える化関係)

# 中部地域コンソーシアム 検討会合（第一回）

日時：令和元年12月25日（水） 9時30分～12時00分

場所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)名古屋オフィス

## 議事次第

1. 開会
2. 内閣府挨拶
- ①知財創造教育の推進状況（10～20分）
3. 議事
  - (1) 本年度の概要説明（3分）
  - (2) 教員が知財創造教育へ主体的に取り組むための環境整備（30分）
    - ①アンケート結果の説明
    - ②意見交換
  - (3) **地域主体のコンソーシアム構築に向けた検討**（50分）
    - ①事務局案の説明および次回会合に向けた論点抽出
  - (4) 尖った人材の育成に関する頭出し（40分）
    - ①事務局からの説明および次回会合に向けた論点抽出
4. 事務連絡
5. 閉会



## ■配布資料

- 資料 1 議事次第
- 資料 2 出席者名簿
- 資料 3 知財創造教育の推進状況
- 資料 4 調査実施概要
- 資料 5 教員が知財創造教育へ取り組むための環境整備
- 資料 6 地域主体のコンソーシアム構築に向けた検討
- 資料 7 - 1 尖った人材の育成
- 資料 7 - 2 尖った人材の育成に関するアンケート調査票 (案)
- 参考 1 知的財産推進計画 2019 (一部抜粋)

## 中部地域コンソーシアム 検討会合（第二回）

日時：令和2年3月12日（木） 15時～17時30分

場所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）名古屋オフィス10階

### 議 事 次 第

1. 開会

2. 議事

（1）実証授業の実施結果

（2）教員が知財創造教育へ主体的に取り組むための環境整備および  
定着に向けたロードマップの策定

（3）尖った人材を育成する場について

3. 事務連絡

4. 閉会

#### ■ 配布資料

資料1 議事次第

資料2 出席者名簿

資料3 実証授業結果

資料4 教員が知財創造教育へ取り組むための環境整備と定着に向けたロードマップ策定

資料5 尖った人材の育成

参考1 研究会・イベントの例

# 直近の成果と今後の方向性

- **知財創造教育ネットワークの構築が進んだ。**
  - 属性分布：教育機関（学校、大学）、民間団体、公的団体、  
地方公共団体、中部経産局知財室、内閣府知財事務局、事業事務局**
  - 地域分布：東海地区                      愛知、岐阜、三重、静岡  
北陸・信越地区                      新潟、長野  
その他                                      滋賀**
- 中部経産局知財室より、WIPO日本事務所澤井所長の講演を調整。
- 「知財創造教育」「知財教育学」の構築と定着。
  - 内閣府知財創造教育コンソーシアム
    - 日本知財学会知財教育分科会    -----    知財学研究の一環として
    - 日本教育学会    -----    教育学研究の一環として
    - 知財創造教育連絡協議会    -----    学校教育現場の教員ネットワーク

中部地域 知財創造教育コンソーシアム 出席者一覧表

属性	名前	所属・職名（当該年度）	2017(1)	2018(1)	2018(2)	2019(1)	2019(2)
【教育機関】	渥美 勇輝	鈴鹿市立平田野中学校教諭	○	○	○		WEB
【教育機関】	世良 清	三重県立津商業高等学校教諭	○	○	○	○	○
【教育機関】	田中 博章	愛知教育大学附属高等学校地歴公民科教諭		○	○	○	○
【教育機関】	山崎 祐二	長野工業高等学校機械科教諭			○		WEB
【教育機関】	森 兆立	鈴鹿享栄学園鈴鹿高等学校教諭			欠		
【教育機関】	中谷 真人	愛知県小中学校長会会長（碧南市立大浜小学校校長）				欠	欠
【教育機関】	大津 孝佳	沼津工業高等専門学校電気電子工学科教授		○	○	○	○
【教育機関】	松岡 守	三重大学教育学部教授	欠	欠		欠	WEB
【教育機関】	三宅 茜巳	岐阜女子大学大学院文化創造学研究科研究科長	○	○	○		
【教育機関】	村松 浩幸	信州大学学術研究院教育学系教授	○	欠			
【教育機関】	磯部 征尊	愛知教育大学創造科学系技術教育講座		○	○	○	欠
【教育機関】	魚住 明生	三重大学教育学部技術・ものづくり教育コース教授		欠	○		
【教育機関】	香坂 玲	名古屋大学大学院環境学研究科教授				欠	○
【教育機関】	西淵 茂男	愛知教育大学理事・副学長				○	○
【教育機関】	糸乗 前	滋賀大学教育学部学校教育教員養成教授				○	

中部地域 知財創造教育コンソーシアム 出席者一覧表

属性	名前	所属・職名（当該年度）	2017 (1)	2018 (1)	2018 (2)	2019 (1)	2019 (2)
【民間団体】	高瀬 雅人	一般社団法人愛知県発明協会	○				
【民間団体】	山上 敏樹	NPO法人子どもアイデア楽工 理事長	○				
【民間団体】	岡田 廣司	株式会社メニコン 取締役／東京福祉大学・大学院 社会福祉学部 教授		○	○		
【民間団体】	鈴木 聡	沼津商工会議所沼津地域中小企業支援センターコーディネーター／株式会社クロスボーダー			欠		
【民間団体】	加藤 明彦	エイベックス株式会社 代表取締役会長（愛知中小企業家同友会会長）				○	○
【民間団体】	内輪 博之	愛知中小企業家同友会 専務理事				○	
【民間団体】	菱川 定俊	中部経済同友会 課長				○	
【民間団体】	筒井 厚至	中日新聞NIE事務局 事務局長					○
【民間団体】	山本 和男	特定非営利活動法人アスクネット 代表理事					○
【公的機関】	中村 敬	特許業務法人ぱてな 代表弁理士／日本弁理士会東海支部支部長	○				
【公的機関】	渥美 久彦	渥美特許事務所 所長弁理士／日本弁理士会東海支部副支部長	○				
【公的機関】	北 裕介	日本弁理士会 東海支部 教育機関支援機構 機構長／あいぎ特許事務所		○	○		
【公的機関】	菊谷 純	日本弁理士会東海会教育機関支援機構 機構長				○	○
【公的機関】	吉井 雅栄	日本弁理士会北陸支部長／吉井国際特許事務所		○	欠		
【公的機関】	淵上 勇樹	日本政策金融公庫 国民生活事業本部 名古屋創業支援センター	○	○	欠		

中部地域 知財創造教育コンソーシアム 出席者一覧表

属性	名前	所属・職名（当該年度）	2017 (1)	2018 (1)	2018 (2)	2019 (1)	2019 (2)
【地方公共団体】	北岡 龍也	岐阜県教育委員会事務局学校支援課長	欠				
【地方公共団体】	秋田 浩介	愛知県 経済産業局産業部 産業科学技術課 研究開発支援グループ 主事				○	
【地方公共団体】	佐野 和也	富士宮市産業振興部商工振興課知財戦略・商業係主幹兼係長	○				
【地方公共団体】	佐野 勝紀	富士宮市産業振興部商工振興課知財戦略・商業係主査	○	欠			
【経済産業局知財室】	大山 栄成	中部経済産業局地域経済部産業技術課知的財産室長	○				
【経済産業局知財室】	正 智晃	中部経済産業局地域経済部産業技術課知的財産室長		○	欠	○	○
【事業主体・内閣府】	西川 毅	内閣府知的財産戦略推進事務局参事官補佐	○		欠		
【事業主体・内閣府】	守 誠一朗	内閣府知的財産戦略推進事務局参事官補佐				○	○
【事業事務局】	萩原 達雄	三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）知的財産コンサルティング室主任研究員	○	○	○	○	○
【事業事務局】	上野 翼	三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）知的財産コンサルティング室 研究員/副主任研究員	○	○	○	○	○
【事業事務局】	平川 彰吾	三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）政策研究事業本部研究開発部研究員	○	○	○	○	○

# 直近の成果と今後の方向性

- 知財創造教育ネットワークの構築が進んだ。
  - 属性分布：教育機関（学校、大学）、民間団体、公的団体、  
地方公共団体、中部経産局知財室、内閣府知財事務局、事業事務局
  - 地域分布：東海地区                      愛知、岐阜、三重、静岡  
北陸・信越地区                      新潟、長野  
その他                                      滋賀
- **中部経産局知財室より、WIPO日本事務所澤井所長の講演を調整。**
- 「知財創造教育」「知財教育学」の構築と定着。
  - 内閣府知財創造教育コンソーシアム
    - 日本知財学会知財教育分科会    -----    知財学研究の一環として
    - 日本教育学会    -----    教育学研究の一環として
    - 知財創造教育連絡協議会    -----    学校教育現場の教員ネットワーク

# 愛知県内の高校における知財教育について

令和2年8月 中部経済産業局知的財産室

- 1. 日程・時間** 令和2年11月12日（木）の午後（1. 5～2 時間程度（時間は相談可能））
- 2. 目的・内容** 特許（発明）・意匠（デザイン）・商標（ブランド）など、難しく複雑に見える「知的財産」という無形資産が私たちの生活において果たす役割や、ビジネスにおける経営と知財とのつながり、ライセンスや模倣品対策といった活用方法、グローバルな事業活動を行う上での重要性などをテーマとして、具体的な事例を交えながら、大学や社会に出てから必要な知識となる「知的財産」に関する普及啓発を高校生向けに行う。
- 3. 講師** 世界知的所有権機関（WIPO）日本事務所長 澤井 智毅  
【略歴】 1987年 特許庁入庁  
2005年 日本貿易振興機構ニューヨーク知的財産部長  
2011年 特許庁総務部 国際課長  
2013年 特許庁審査第一部 調整課長  
2016年 特許庁 審査第一部長  
2019年11月～ WIPO日本事務所長
- 4. 対象** 愛知県内の高校（1クラス単位、1学級単位又は1クラブ活動等の30～40人程度）で、2～3年生を想定
- 5. 費用** 講師謝金・旅費ともに不要



（出典: WIPOウェブサイト）

## 【参考：WIPOについて】

- ・WIPOは、「World Intellectual Property Organization」の略で、知的財産権保護の国際的な促進を目的とした国連の専門機関で1970年に設立、スイスのジュネーブに本拠を置いています。
- ・主な活動としては、知的財産権保護のための各国制度の調和等を目的とする条約の策定、技術的法律的な協力を通じて途上国における保護水準の引き上げ、知的財産に関する紛争解決の促進などを行っています。



# 直近の成果と今後の方向性

- 知財創造教育ネットワークの構築が進んだ。  
属性分布：教育機関（学校、大学）、民間団体、公的団体、  
地方公共団体、中部経産局知財室、内閣府知財事務局、事業事務局  
地域分布：東海地区                      愛知、岐阜、三重、静岡  
                  北陸・信越地区              新潟、長野  
                  その他                                  滋賀
- 中部経産局知財室より、WIPO日本事務所澤井所長の講演を調整。
- 「**知財創造教育**」「**知財教育学**」の構築と定着。  
**内閣府知財創造教育コンソーシアム**  
日本知財学会知財教育分科会    -----    知財学研究の一環として  
日本教育学会    -----    教育学研究の一環として  
知財創造教育連絡協議会    -----    学校教育現場の教員ネットワーク

# 「知財創造教育」「知財教育学」の構築と定着

内閣府知財創造教育推進コンソーシアム



知財創造教育連絡協議会(仮)



日本知財学会 知財教育分科会



日本教育学会

# 「知的財産教育学」を構想する

(「知財教育」「知財創造教育」)

話題提供者：小林 英司 (内閣府知的財産戦略推進事務局参事官)

「with/after コロナにおける知財創造教育の役割」

同上：上野 翼 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

「知財創造教育実践例の広がり」

同上：香坂 玲 (名古屋大学大学院環境学研究所 / (一社)グローバル教育センター (GleC))

「環境問題と知財創造教育のこれから：総合的な学力と課題解決能力の醸成に向けて」

同上：後安 美紀 ((一財)たんぼの家)

「福祉と知財の幸福な関係を考える」

討論者：渥美 勇輝 (鈴鹿市立平田野中学校)

同上：谷口 牧子 (旭川工業高等専門学校)

同上：原 直子 (東京都立桜修館中等教育学校)

同上：吉田 拓也 (四天王寺東高等学校・中学校)

討論総括者：本江 哲行 (北九州工業高等専門学校)

企画者：世良 清 (三重県立四日市商業高等学校)

※ この紙上討論に掲載された発言は、その発言者に著作権が帰属しています。同法に基づき、適切な取り扱いをお願いします。

## オープニング

【司会】 ただいまから、ラウンドテーブル『「知的財産教育学」を構想する』を開始します。開会の挨拶を兼ねて、企画者から趣旨の説明をお願いします。

【世良】 皆様、このたびはご参加いただき、ありがとうございます。2018年の日本教育学会第77回大会において、テーマ型研究発表の機会に恵まれ、これまで教育実践研究を進めてきました。第79回大会は、集会開催ができなくなりましたが、ラウンドテーブルは紙上討論会を実施することになりました。

「知的財産に関する教育及び学習」(知財教育)の概念形成は、日本では、2002年の内閣総理大臣による知財立国宣言以降、知的財産(知財)を学校教育における学習対象として位置づけ、教育実践を積み重ねながら進んできました。学校教育の場で真正面に知財を据えた教育研究は世界的にみても画期的であります。しかし、その捉え方は多様であり、教育の各場面で共有がなされているとは言えません。引き

続き、知財の専門家の立場と教育の専門家の立場で議論を進め、知財教育学を構想することとしたいと思えます。

今、地球規模で広がるコロナ禍は、「新しい生活様式」の工夫が求められています。ピンチをチャンスに!!「新しい生活様式」を実現する1つの機会です。新しい価値を生み出すことによって、コロナ新時代を見据えた知的財産教育学は、社会に貢献できるものとなりえます。それに向けて、このラウンドテーブルの登壇者は、産・官・学・民の立場からご参集いただき、北海道から九州まで、日本全国を縦断したのとなっています。話題提供者の皆様には、様々なアプローチで話題提供をしていただき、討論者・討論総括者の皆様には学校教育現場の視線で議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

## 登壇者紹介

【司会】 この紙上討論会は、話題提供者4名、討論者4名、討論総括者1名、企画者1名、合わせて10名で進行します。では、話題提供者の皆様から自己紹介をお願いします。

【小林】 内閣府知的財産戦略推進事務局の小林です。このような機会をいただき、誠にありがとうございます。私は、特許庁に入庁後、特許審判官・審査官として、例えば、ゲームや事務用品などの社会基盤分野の審判・審査に従事してきました。また、知財制度の改正、知財活用に係る施策及び審判制度の運用などについての企画・立案担当などを経て、2017年4月からは、地域金融機関による企業の成長支援を後押しする「知財ビジネス評価書・知財ビジネス提案書」の提供などの、地域・中小企業の知財活用支援を担当していました。そして、2019年7月より現職で、「知財創造教育」を担当しています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



【上野】 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(略称:MURC)の上野です。取りまとめてくださり、ありがとうございます。私も自己紹介を記載させていただきます。まず、知財との出会い(かつ、知財教育に問題意識を持ったきっかけ)ですが、学生時代は応用化学を専攻しており、修士2年の終わりに「研究成果が良い感じでまとまってきたので、特許にチャレンジできるかも」との周りの声を受けて、特許出願にチャレンジしようと思いました。しかし、当該研究成果を半年以上前に学会・論文で公開してしまっており、新規性喪失の例外規定を適用できないことが判明し出願を断念しました。そもそもそのようなルールがあ

るのを知らなかったですし、「新たなアイデアを創出する活動にずっと携わってきたのに、知財に関して全く学ぶ機会がなかったのは問題ではないか？」との強い問題意識を持ちました。

そのような経緯で知財に関する仕事を志し、当社入社後は、主に中小企業の知財活用支援を主たるテーマとしながらも、産学連携やグローバルでの出願動向調査等、知財を軸とした幅広いテーマで調査研究等に従事しています。知財教育には、業務としては4年くらい前から関与しており、当社が手掛けたプロジェクトではいずれもプロジェクトリーダーとして参画させていただいています。(最もやりたかったテーマなので、官庁の仕事だけでなく、当社独自予算も工面して、自主事業としても拡大中)日本知財学会知財教育分科会幹事メンバーに加えてもらったり、日本教育学会でも2年前、昨年と連続で発表をさせてもらっています。皆様どうぞ宜しくお願い致します。



**【香坂】** 理系出身ですが、専門が林政・資源管理で政策寄りの事象にもともと興味がありました。さらに国連の生物多様性条約に勤務していた時分に、遺伝資源の南北対立の激しさやWIPOの地理的表示から関心を持ちました。ただ、いまだに「環境・農林業なのになぜ知財をやるのか」という質問をよく受けます。やっとな時代が追いついてきたと自分では思っているのですが。経歴としては、東大農を卒業し、ドイツで博士号を取得しました。国連勤務、COP10が名古屋開催となり、生物多様性の事務局から名古屋の大学に移籍となりました。研究としては地理的表示の保護、地域団体商標など農林業分野での知財活用に関心あり、そこから知財教育としては、伝統野菜など、歴史、生態系、そして知財や創造の教育としての教育素材の活用に興味があります。知財や環境の分野での幅広い世代への普及を目的に、(一社)グローバル教育センター (GleC) でも活動しています。研究室から発信しているサイトです。

⇒ <https://www.facebook.com/kohsaka.jp>

**【後安】** もともとは生態心理学を専門としておりまして、表現者の創作現場にはりついて、表現する人の知覚や行為のありようや、生態学的な情報について研究してまいりました。科学技術振興機構 (JST) の「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」に関するプロジェクトで、劇作家・演出家の平田オリザさんが率いる劇団、青年団の稽古場に入りし、またそのプロジェクトで出会った造形作家の岡崎乾二郎さんとドローイングロボットを用いた描画研究を進めてきました。現在、研究者としての仕事としては、加賀市と中谷宇吉郎記念財団が協働する「かがく字かん」のリサーチフェローとして芸術と科学をむすぶプロジェクトに参画しています。



3年前、アートの生まれる秘密をもっともっと知りたいと思い、障害のある人たちの表現活動を社会に発信する市民団体である、たんぼぼの家の門をたたきました。たんぼぼの家では、内部の障害のあるアーティストと外部のアーティストと共同で舞台作品を作ったり、知財学習推進プロジェクトでは、「知財でポン！」と名づけた知財学習カードゲームやハンドブックを制作し、気軽に知財について学ぶことのできる学習教材を開発したりしてきました。知財に関しても、福祉に関しても、本当に勉強することばかり (知らないことばかり) で、専門家の方々にいろいろ助けてもらって勉強しながら、表現者向けに自分たちなりに分かった知財のノウハウを発信している最中です。これからいろいろなことをディスカッションできるのを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いたします。なお、こちらが、たんぼぼの家から発信している知財学習推進プロジェクトのサイトになります。

⇒ <https://chizai.goodjobcenter.com/>

**【渥美】** 三重県鈴鹿市で中学校技術科の教員をしております。大学生時代はロボコンやものづくり教室に携わり、アイデアを形にする子どもたちと関わってきました。中学校教員となり、技術科の授業をする中で、問題を解決するためにアイデアを考えることの重要性をさらに感じるようになりました。そして、その中で「知財教育」というものに少しずつ関わりをもつようになりました。今回、このような場で、皆様と意見を交わらせることができ、うれしく思います。どうぞよろしくお願いたします。

**【谷口】** 専門は、国際私法です。(国際司法ではありません) 国際私法の視角から、幕末から明治にかけての不平等条約下で起きた涉外的な私法事件に関する研究と、人際法に関する研究をライフワークにしています。研究のための資料の大半が、未発掘の古文書ですので、収集・解説・分析に、長い年月を使ってきました。偶然なのですが、集めた古文書のなかに、技術に関わる件で、欧米人と日本人が採めている事件を複数みつけました。「これは、知的財産に関して、日本における実務的な先例になる」と考え、本格的に、知財を学ぶようになりました。(恩師から、これからは知財の時代だから、たとえ知財で論文を公表することがなくても、きちんと学んでおくようにと、学部の学生時代に言われたことが大きいのですが)

職場が工業高等専門学校ですので、知財関連法のみを研究・講義するのではなく、私自身が、高専の学生たちに、知財権を取得させるように指導しなければ、高専の専門学科の教員や学生たちに、その重要性を伝えられないとの思いに至り、学生たちには知財権取得を促してきました。「高専の学生ですから、簡単な特許明細書くらいかけて当然です。」と、言い切っています。旭川高専は、山口大学よりも先に、知的財産権の科目を、全学生の必修科目としました。(20年ほど前は、専門学科の教員であっても、特許を教えて何の役に立つのだ。予算の無駄づかいだ。と、猛反対していました。)

この10年、特許庁・INPIT・文科省・日本弁理士会等が主催するパテントコンテスト・デザインパテントコンテストにおいて、優秀賞に選出される常連校になりました。知財に特に関心のある学生たちだけではなく、15コマの授業の中からも複数の特許権や意匠権を取得することができました。10年間で18人の学生が特許権や意匠権を取得しています。出願した学生全員が、特許権または意匠権を取得することになります。コンテストに入賞して出願しても、権利を取得できないこともよくあるそうですので、御関係のみなさんが、旭川高専の学生たちの権利化率100%に、注目してくださっているのも事実です。ただ、どのように指導しているのか、よく聞かれるのですが、まさに、国際私法の視角から (国際取



## 分科会 Subcommittee



ホーム > 分科会 > 定例研究会 > 第43回定例研究会

### 分科会

- ▶ 分科会TOP
- ▶ 定例研究会
- ▶ エグゼクティブ知的財産時事懇談会
- ▶ 知財人財育成研究分科会
- ▶ 知財会計・経営分科会
- ▶ 知財教育分科会
- ▶ 知財学ゼミナール

## 【会員対象】定例研究会

第43回定例研究会（知財教育分科会 第53回知財教育研究会）  
「知的財産権学習カードゲーム『知財でポン！』」（2020年11月7日開催）

第43回定例研究会は、知財教育分科会が担当します。  
「知的財産権学習カードゲーム『知財でポン！』」は、福祉分野に知財教育を取り入れている一般財団法人たんぼぼの家が実施する事業「知的財産活用に向けた人材育成のための調査と学習プログラムの開発」の一環でつくられました。今回は、たんぼぼの家のご協力をいただき、『知財でポン！』の実演を、解説とともにオンラインで視聴体験することができます。このゲームは学校教育や社会教育だけでなく、企業の人材育成にも有用と考えられます。

知財にかかわる誰もが、昨今の知財教育研究の拡がりを視野に入れ、今後の一層の発展を考える機会となれば幸いです。

- ▶ 分科会TOP
- ▶ 定例研究会
- ▶ エグゼクティブ知的財産時事懇談会
- ▶ 知財人財育成研究分科会
- ▶ 知財会計・経営分科会
- ▶ 知財教育分科会
- ▶ 知財学ゼミナール
- ▶ ビジネスと知的資産・知財法研究分科会
- ▶ コンテンツ・マネジメント分科会
- ▶ 知財制度・判例分科会
- ▶ 大学発イノベーション分科会
- ▶ ブランド経営分科会
- ▶ 経営デザイン分科会

入会のご案内 

## 第43回定例研究会（知財教育分科会 第53回知財教育研究会） 「知的財産権学習カードゲーム『知財でポン！』」（2020年11月7日開催）

第43回定例研究会は、知財教育分科会が担当します。  
「知的財産権学習カードゲーム『知財でポン！』」は、福祉分野に知財教育を取り入れている一般財団法人たんぼぼの家が実施する事業「知的財産活用におけた人材育成のための調査と学習プログラムの開発」の一環でつくられました。今回は、たんぼぼの家のご協力をいただき、『知財でポン！』の実演を、解説とともにオンラインで視聴体験することができます。このゲームは学校教育や社会教育だけでなく、企業の人材育成にも有用と考えられます。

知財にかかわる誰もが、昨今の知財教育研究の拡がりを視野に入れ、今後の一層の発展を考える機会となれば幸いです。

<b>【日 時】</b> 2020年11月7日（土）14時～15時30分
<b>【会 場】</b> Zoomによるオンライン開催 （実施拠点：一般財団法人たんぼぼの家（奈良市））
オンライン開催にあたり、参加申込された方に、事前にオンラインアプリ（ZOOM）のURLとパスワードをお知らせし、参加していただくこととなります。 ※事前に参加申込がないと参加できませんので、ご注意ください。
<b>【話題提供者(敬称略)】</b> 岡部太郎（一般財団法人たんぼぼの家 常務理事） 大井卓也（一般財団法人たんぼぼの家 スタッフ） 後安美紀（一般財団法人たんぼぼの家 スタッフ）ほか

## 日本知財学会 第18回年次学術研究発表会

[https://www.ipaj.org/workshop/2020/workshop\\_2020.html](https://www.ipaj.org/workshop/2020/workshop_2020.html)

大会の全体テーマ：ニューノーマルにおける知的財産戦略 —5G, AI, IoT, DXでポストコロナ時代を拓く—

日 程：2020年11月28日（土） - 29日（日）

開催方法：オンライン開催（ZOOMを予定）（拠点：国立大学法人電気通信大学）

---

### 【知財教育分科会セッション】（案）

日 程：2020年11月29日（日） 14：30-16：00（90分）

形 式：ラウンドテーブル

テーマ：「ニューノーマルにおける知財教育学を俯瞰する」

日本知財学会知財教育分科会では、2007年の第5回年次学術研究発表会で、初の知財教育分科会セッション「知財教育の方向性を探る」を実施して以来、タイムリーな話題提供者をお招きし、毎回欠かさず分科会セッションを実施してきました。

直近では、2019年の第17回発表会で「ラウンドテーブル：知的財産推進計画と知財創造教育」を実施しました。内閣府知的財産戦略推進事務局の小林英司参事官から、知的財産推進計画2019の概要と同事務局で推進している知財創造教育の取組状況についてご講演いただき、また、日本教育学会理事である東京大学大学院教育学研究科の勝野正章教授をコメンテーターとしてお招きし、学術的な視点から教育現場の現状、知財教育の課題や期待することについてご意見をいただき、議論が進みました。一方、日本教育学会の2020年8月の第79回大会においても、ラウンドテーブル「『知的財産教育学』を構想する」が実施され、教育学のアプローチから「知財教育学」を確立する議論が進んでいます。

さて、第18回発表会では、知財教育学を基盤整備に当たり、知財教育と密接な関係のある諸団体の教材や人材などの資源の状況などを情報共有するとともに、今後の役割分担を検討する機会として、ラウンドテーブルを開催したいと考えます。

話題提供者（50音順）：知財教育関係4団体と調整中

# 知財創造教育連絡協議会(仮)の設立に向けて(案)

- 趣旨** 平成29年度から実施されてきた地域の地域創造教育コンソーシアム(調査事業)は、全国的な規模で、知財創造教育の進展が進みつつあり、目を見張るものがある。しかし、国民一般には、まだ認知されていないのが現状で、誤った(あるいは偏った)認識をされている可能性も一部あるのではないかとも思われる。令和2年以降も、知財創造教育を広く国民に正しく理解してもらうための普及啓発活動を強化することは非常に重要であり、知財創造教育の地域別コンソーシアムの存続、あるいは発展は最優先課題と位置づけられる。  
一方、学校教育現場で児童生徒に直接的に指導する教員のほか、これを支援する産学官の組織との連携体制を草の根で育んでいくことも重要である。地域の知財創造教育コンソーシアムは3年間の経過を経て、今後は自立が求められており、これまでに各地域の知財創造教育コンソーシアムにかかわってきた団体・個人が自主的に連絡協議できる場を創設することによって新しい価値が生まれるものと考えられる。  
こうした考えのもと、発起人は、知財創造教育連絡協議会(仮)を提案する。
- 構成員** (1)地域の知財創造教育コンソーシアムに参加した学校教員・新規に知財創造教育にかかわる学校教員  
(2)知財創造教育にかかわる団体、個人
- 組織** あくまで自主的な組織として、原則として、連絡や協議の場を提供する組織として位置づける。  
各地域に世話人を置く。連絡協議会への加入・脱退は自由とする。
- 事業** (1)構成員としての名簿を整備する(個人情報に配慮)  
(2)年間1-2回程度の集会を開催するが、旅費や謝金は支給しない。  
また、必要に応じて、オンラインによる集会の開催も実施する。
- 費用** 原則として徴収しないが、通信費・会場費等として実費を徴収することもある。

発起人:世良清(三重県立四日市商業高等学校) 吉田拓也(四天王寺東高等学校・中学校)



# 今後の計画

- キックオフミーティング・・・地域コンソ第2期地域グループと同期  
参加者の自己紹介（オンライン開催）  
日本弁理士会東海会「知財劇」
- 主な対象地域・・・中部地域、近畿地域、（その他の地域）
- 主な活動・・・名簿整理、連絡調整のためのオンラインミーティング
- 知財創造教育コーディネータ、知財教育指導者の認定制度

**皆様、お世話になります。よろしく申し上げます。**

**<ご静聴ありがとうございました>**